

## ニホンガク 最前線 ⑤

日時

2014年6月27日(金)

17:00～18:30

場所

岡山大学文学部会議室  
(文法経1号館 2階)

入場無料・予約不要

# 18世紀ヨーロッパの雑誌に見る日本

——「文芸共和国」における「日本」の表象とその意味



フランチェスコ・カンパニョーラ

Dr. Francesco Campagnola  
(ゲント大学・研究員)

\* 日本語による講演です

18世紀のヨーロッパ。交通手段や情報網の発達もあって、西洋には、世界中の膨大な知識がもたらされました。そのなかで学者たちは、独自の国際的ネットワークをつくりだし、「文芸共和国」と名づけます。

この「文芸共和国」では、日本に関する知識も当然のこと、関心の的となりました。ヨーロッパ人は、日本に何を見たのでしょうか？ 当時の学術雑誌に書かれた「日本」の姿を追いかけると、近代に向かうなかで激変する「学問」の在り方、さらに「ヨーロッパ」自身の姿までもが、まるで鏡に映したように見えてきます。一味違う日欧交流史をどうぞ。

